

平成 30 年 6 月 21 日

報道機関 各位

東北大学災害科学国際研究所

文化財・歴史資料保存における超高精細スキャニング撮影技法セミナー  
開催のお知らせ（平成 30 年 7 月 2 日）

このたび、東北大学災害科学国際研究所は、昨年度より研究所に導入された世界最先端の超高精細スキャナを用いた文化財・歴史資料の撮影技法について、下記のセミナーを開催いたします。ご多忙中と存じますが、本イベントについて広く周知いただくとともに、当日はご取材の上、紙面・番組等でご紹介くださいますよう、お願いいたします。取材にあたっての事前申し込みはご不要です。

詳細は以下のとおりです。

**1. タイトル**

文化財・歴史資料保全における超高精細スキャニング撮影技法セミナー

**2. 開催日時・場所**

日時:平成 30 年 7 月 2 日(月) 13:00~17:00

場所:東北大学災害科学国際研究所 多目的ホール

当日参加可能、詳細については災害科学国際研究所 HP を参照。

→<http://irides.tohoku.ac.jp/>

\*当日の会場設営のため登録フォームより登録をお願いいたします。

→<https://goo.gl/1ubkAD>

**3. 趣旨**

近年、列島規模で頻発する災害を受けて、災害からいかにして文化財や歴史資料を守っていくか、またこれらに込められた先人達の記憶・知見をいかに防災へと活用していくかという課題が注目されています。近年では文化財や歴史資料の保全について各地で様々な取り組みや新たな技法が実践されています。東北大学においても、平成 20 年の岩手宮城内陸地震や平成 23 年の東日本大震災を受けて、被災地における文化財・歴史資料のレスキュー活動や、歴史資料をベースにした文理融合型の災害研究に取り組んでいます。

平成 29 年 6 月、本学は指定国立大学法人の指定を受け、重点項目のひとつとして人文科学・社会科学・実践科学・自然科学を融合させた「災害研究」を掲げ、この新たな学際研究領域を世界に先駆けて開拓することを目指しています。その一環として、世界最先端のデ

デジタル技術による高精細スキャナを導入し、文化財・歴史資料の高解像度の撮影設備を導入しました。

今回のセミナーでは、本システムと画像分析のシステムを開発し、これまでに1万点以上の日本の国宝級文化財、世界文化遺産をデジタル化に取り組んできた井手亜里氏より、高精細スキャナの性能や活用事例を紹介いただくとともに、これらの技術の歴史的検証や防災への活用の可能性について講演をいただきます。あわせて、実際に設備を使ったスキャニングの実演をおこない、各地の資料所蔵関係者と本設備を活用した文化財・歴史資料の保存撮影や情報の活用について意見交換を実施。

#### **4. 次第**

○講演(13:10-14:10)

井出亜里氏(京都大学名誉教授)

○高精細スキャンの活用に関する研究・事例報告(14:20-14:50)

蝦名裕一(東北大学災害科学国際研究所准教授)

工藤稔(西華デジタルイメージ株式会社)

○高精細スキャニングの実演(15:00-16:30)

#### **5. 主催・共催**

主催:東北大学災害科学国際研究所、指定国立大学災害科学世界トップレベル研究拠点

共催:歴史文化資料保全大学間ネットワーク事業東北大学拠点

主管:指定国立大学災害科学世界トップレベル研究拠点災害人文学研究領域

東北大学災害科学国際研究所アーカイブユニット(代表:今村文彦)

#### **【問い合わせ先】**

東北大学災害科学国際研究所  
災害文化研究室(担当・蝦名)

Tel・FAX: 022-752-2146

mail: ebin@irides.tohoku.ac.jp